もくじ

はじめてよむどうわ　オレンジゾーン
1・2年生　レモンゾーン
ちしきの本　ソーダゾーン

3・4年生　ライムゾーン
5・6年生　グレープゾーン
ファンタジー　ピーチゾーン
冒　険　ココアゾーン

～　このリストは　～

- 現在（平成25年2月）発行されている本の中から72点選びました。
- 学年別に書名の50音順に並んでいます。（分けかたは、めやすです。）
- それぞれ、書名、著者（本の奥付どおり）、出版社、ページ数、内容を載せています。

伊丹市立図書館 ことば蔵

〒664-0895
兵庫県伊丹市宮ノ前3丁目7番4号
☎072-783-2775
http://www.itami-library.jp/

よんでよんで物語

伊丹市立図書館ことば蔵

はじめて よむ どうわ

『こぐまのくまくん』

E・H・ミナリック／文
モーリス・センダック／絵
松岡　享子／訳
福音館書店　60ページ

そとはゆきがふっています。さむがりやのくまくんは「きるものがほしい」とおかあさんにいいました。すると、おかあさんはいいものをつくってくれました。ところが、やっぱりくまくんは「さむいよう」というのです。

『ふうたのゆきまつり』

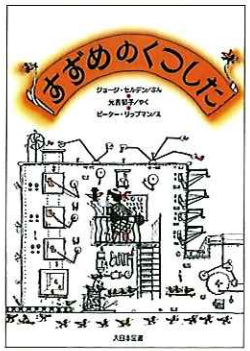
あまん　きみこ／作
山中　冬児／絵
あかね書房　90ページ

タクシーうんてんしゅのまついさんは、ゆきみちで、こぎつねのふうたとであいました。ふうたは、ものしりのまついさんに「にんげんになるほうほうをおしえて！」ときくのです。

『おばけのジョージー おおてがら』

ロバート・ブライト／作・絵
中川　千尋／訳
徳間書店　63ページ

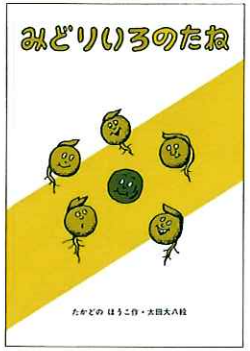
ジョージーは、ホイッティカーさんのいえにすんでいる、ちいさなおばけ。はずかしがりやで、だれかをおどかすなんて、したことがありません。ところが、あるひ、ホイッティカーさんのいえにどろぼうがやってきました。



『すずめのくつした』

ジョージ・セルデン／文
ピーター・リップマン／絵
光吉　郁子／訳
大日本図書　72ページ

アンガスのうちはくつしたこうばです。けれども、まちのひとたちは、くつしたをかいにきてくれません。あるひ、アンガスは、なかよしのすずめがふるえているのをみて、くつしたを1そく作ってやりました。



『みどりいろのたね』

たかどの　ほうこ／作
太田　大八／絵
福音館書店　95ページ

まあちゃんのクラスで、はたけにたねをまくことになりました。みんな、みどりいろのたねを5こずつもらって、つちにうめていきます。ところが、まあちゃんは、なめていたみどりいろのあめだままでうめてしまいました。

『きいろいばけつ』

もりやま　みやこ／作
つちだ　よしはる／絵
あかね書房　75ページ

きつねのこが、きいろいばけつをみつけました。あたらしくて、ぴかぴかで、ちょうどいいおおきさです。ぼくのものだったらいいのに、ときつねのこはおもいます。だれのものでしょう。もちぬしはあらわれるでしょうか。

『はじめてのキャンプ』

林　明子／作・絵
福音館書店　103ページ

なほちゃんがおとなりのうちにいくと、おばさんが「おおきいこは、キャンプにいきますよ」といっていました。「わたしもいく！」となほちゃんがいうと、みんなが、「ちっちゃいこはだめ！」というのです。

『わたしのおかあさんは 世界一びじん』

ベッキー・ライアー／文
ルース・ガネット／絵
光吉　郁子／訳
大日本図書　42ページ

あるひ、ワーリャはむらでまいごになってしまいました。「わたしのおかあさんは世界一びじん！」とワーリャがはなしたので、むらじゅうからびじんのおかあさんたちがあつめられて、おかあさんさがしがはじまりました。

ちしきの本

『星座を見つけよう』

H·A·レイ／文・絵
草下　英明／訳
福音館書店　72ページ

星を見分け、星座を見つけ出すことができますか？大天文台の窓から星空を見たときと同じように、星空のようすが書かれています。

『せいめいのれきし』

バージニア・リー・バートン／文・絵
いしい　ももこ／訳
岩波書店　76ページ

考えられないほど大昔、太陽がうまれ、地球がうまれました。地球上に生命がうまれた時から現在までのおはなしです。

『たねのずかん』

古矢　一穂／文
高森　登志夫／絵
福音館書店　31ページ

種は、風によって運ばれたり、実がはじけたり、水や動物によって運ばれたりします。より遠くへ運ばれるための種のしくみと、その植物の姿が描かれています。

『チリメンモンスターをさがせ！』

きしわだ自然資料館
きしわだ自然友の会／監修
日下部　敬之
偕成社　64ページ

チリメンジャコの中にまじって見つかる小さな生き物たち、チリメンモンスター。チリメンモンスターをさがして、よく観察し、海のひみつも知ったら、チリモンマスター！！

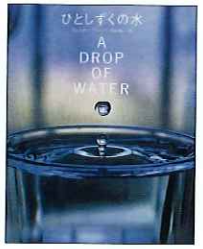
『月の満ちかけ絵本』

大枝　史郎／文
佐藤　みき／絵
あすなろ書房　39ページ

なぜ新月は見えないのか、月の満ちかけはどうしておこるのか、日食や月食はどうしておきるのか、楽しく学べるユニークな「月観察」絵本です。

『ひとしずくの水』

ウォルター・ウィック／著
林田　康一／訳
あすなろ書房　35ページ



ひとしずくの水から、いろいろなことが見えてきます。ひとしずくの水の終わりのない旅から、自然のおもしろさや科学的なものの見方を知ることができます。

『シートンどうぶつ記 全10巻』
（低学年向き）

小林　清之介／文
あすなろ書房　85ページ

『シートン動物記 全15巻』
（高学年向き）

アーネスト・T・シートン／文
今泉　吉晴／訳・解説
童心社　175ページ

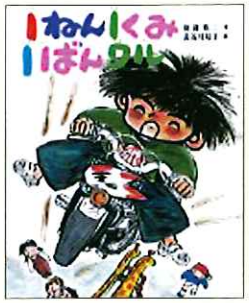
『ファーブルこんちゅう記 全10巻』
（低学年向き）

小林　清之介／文
あすなろ書房　94ページ

『ファーブル昆虫記 全8巻』
（高学年向き）

奥本　大三郎／著
集英社　293ページ

1・2年生



『1ねん1くみ1ばんワル』

後藤　竜二／作
ポプラ社　78ページ

1ねん1くみでいちばんのワルは「くろさわくん」です。ある日、くろさわくんはじてんしゃですべりだいからジェットコースターのようにすべりおりました。みんなはひめいをあげてびっくりしました。

『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット／作
渡辺　茂男／訳
福音館書店　121ページ

エルマーは、あめにぬれているねこを、うちにつれてかえりミルクをやりました。ねこからどうぶつ島にとらわれているりゅうの子のはなしをきいたエルマーは、ねこといっしょに、たすけにいくことにしました。

『おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ』

ジャンヌ・ロッシュ=マゾン／作
山口　智子／訳
福音館書店　90ページ

ブナの林に11ぴきの子リスのきょうだいがすんでいました。いちばん小さな子リスはゲルランゲといいました。ゲルランゲはおそうじがだいきらいで、とうとう家からおいだされてしまいました。

『かえるのエルタ』

中川　李枝子／作
福音館書店　108ページ

かんたは、かえりみちでおもちゃのカエルをひろいエルタとなまえをつけました。雨をあびたエルタはほんもののかえるになり、カンタを「みどりのはっぱごう」というふねで「うたえみどりのしま」へつれていきました。

『くまの子ウーフ』

神沢　利子／作
ポプラ社　134ページ

くまの子ウーフは「ウーフー」とうなるのでウーフという名前だそうです。ウーフはあそぶのが大すきで、なめること、たべること、それからいろんなことをかんがえることも大すきです。そんなウーフのおはなしです。

『ゴインキョとチーズどろぼう』

エミリー・ロッダ／作
さくま　ゆみこ／訳
あすなろ書房　46ページ

チュウチュウ通り1番地にすんでいるお金持ちネズミのゴインキョはお宝のチーズをどっさりもっていました。ある日、ガードマンのせいふくをきたどろぼうがチーズをぬすみにやってきました。

『ごきげんいかががちょうおくさん』

ミリアム・クラーク・ポター／作
松岡　享子／訳
福音館書店　100ページ

どうぶつむらのがちょうおくさんは、ものすごくわすれっぽくて、あわてんぼうで、めだちたがりやさんです。そのうえ、とっぴなことをおもいついては、いつもしっぱいばかりしています。

『こぎつねキッペのはるのうた』

今村　葦子／作
ポプラ社　76ページ

ひなた山にはるがきました。こぎつねキッペはうれしくてうれしくてたまりません。だってもうあかちゃんではないのです。ひとりでひなた山のてっぺんにものぼれます。ころがりおりることだってできます。

『つくえのうえのうんどうかい』

佐藤　さとる／作
小峰書店　59ページ

かずやくんのうちには古いつくえがあります。かずやくんとおねえちゃんがつかっています。よる、みんながねしずまると、このつくえの上はかざってあるにんぎょうたちの「つくえのうえしょうがっこう」になります。

『なぞなぞのすきな女の子』

松岡　享子／作
学研教育出版　61ページ

あるところに、なぞなぞのすきな女の子がいました。女の子は森へ、なぞなぞあそびをしてくれる人をさがしにでかけました。いっぽう、森では、オオカミがおひるにたべる子どもをさがしているところでした。

『へんてこもりにいこうよ』

たかどの　ほうこ／作
偕成社　77ページ

ようちえんのうらに、ヘンテ・コスタさんがつくった「へんてこもり」がありました。子どもたちがしりとりをしながらもりへ入っていきました。ブンタが「ま、ま、まるぼ」というとほんとうにまるぼがあらわれました。

『なんでももってる(?)男の子』

イアン・ホワイブラウ／作
石垣　賀子／訳
徳間書店　110ページ

大金もちのナンデモモッテル家にフライという男の子がいました。この男の子はなんでももっていましたので、たんじょう日のプレゼントにほしいものをきかれても、何がほしいのかわかりませんでした。

『みしのたくかにと』

松岡　享子／作
こぐま社　57ページ

ふとっちょおばさんがたねをまき、「あさがおかもしれない　すいかかもしれない　とにかくたのしみ」とかいてそばに立てました。それをさかさによんだ王子さまは、「みしのたくかにと」がたべたいと言いだしました。

『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー／作
松岡　享子／訳
福音館書店　68ページ

あるところに、おかあさんねずみと四ひきの子ねずみがいました。四ばんめの子ねずみは「やかましやのヤカちゃん」とよばれるくらい大きな声でしたので、いつも「しーっ、しずかに」としかられていました。

『ロボットカミイ』

古田　足日／作
福音館書店　88ページ

カミイは、たけしとようこがダンボールのはこでつくったロボットです。たけしたちはカミイをつれてようちえんにいきました。いたずらずきで、わがままで、なきむしなカミイにようちえんは大さわぎです。

3・4年生

『あたまをつかった小さなおばあさん』

ホープ・ニューウェル／作
松岡　享子／訳
福音館書店　92ページ

おばあさんは頭をつかうのがじょうず。ぬれタオルで頭をしばり、鼻の横に指をあてて目をつぶると、いい知恵がうかびます。そうやって、あたたかいはねぶとんを手に入れたり短いエプロンを長くしたりしたのです。

『歌うねずみウルフ』

ディック・キング=スミス／作
三原　泉／訳
偕成社　141ページ

ハニービーさんの家に住むねずみに、子どもがうまれました。末っ子ねずみは、音楽家にちなんだりっぱな名前をつけてもらいましたが、そのせいでからかわれてばかり。でも、その子にはすごい才能があったのです。

『大どろぼうホッツェンプロッツ』

オトフリート・プロイスラー／作
中村　浩三／訳
偕成社　184ページ

おばあさんの家にごうとうがはいりました。大どろぼうのホッツェンプロッツです。おばあさんの大切なコーヒーひきをとりもどすために、カスパールとゼッペルは大どろぼうをつかまえる作戦をたてます。

『オバケちゃん』

松谷　みよ子／作
講談社　117ページ

オバケちゃんはおばけの男の子です。パパおばけとママおばけといっしょに森でくらしています。ある日、オバケちゃんの森に、人間がやってきました。そして、森を原っぱにして大もうけするそうだんをはじめたのです。

『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ラッセル・E・エリクソン／作
佐藤　涼子／訳
評論社　79ページ

そうじが大好きなウォートンと料理が大好きなモートンは、ヒキガエルの兄弟です。ある日、ウォートンは、モートンの作ったお菓子を持っておばさんを訪ねる途中、ミミズクにつかまってしまいます。

『がんばれヘンリーくん』

ベバリイ・クリアリー／作
松岡　享子／訳
学研教育出版　227ページ

ヘンリーは、町でがりがりにやせた犬をひろいました。家につれて帰るため、紙袋にかくしてバスに乗りこみます。ところが、犬はバスの中で暴れだして大さわぎに。パトカーまで現れる始末です。

『くまのパディントン』

マイケル・ボンド／作
松岡　享子／訳
福音館書店　209ページ

ペルーからやってきたくまのパディントンは、ブラウンさんの家でくらすことになりました。パディントンにとってロンドンの生活はめずらしいことばかり。いつも行く先々でさわぎがおこります。

『車のいろは空のいろ　1　白いぼうし』

あまん　きみこ／作
ポプラ社　125ページ

松井さんはタクシーの運転手さん。ぴかぴかの空いろのタクシーにのっています。松井さんのタクシーには、なぜか、ふしぎなお客さんがのってきます。

『ケイゾウさんは四月がきらいです。』

市川　宣子／作
福音館書店　127ページ

幼稚園にすむにわとり、ケイゾウさんの家に、どうきょにんがやってきました。うさぎのみみこです。口は悪いけどめんどう見のいいケイゾウさんと、ちゃっかりやのみみこ。なかよくくらしていけるでしょうか。

『チム・ラビットのぼうけん』

アリソン・アトリー／作
石井　桃子／訳
童心社　190ページ

チムはうさぎのぼうやです。チムにとって世界ははじめてのことばかり。風にふきつけられてこわい思いをしたり、はさみでいたずらをしたり、きのこをあまがさにしたり。おさない子どもの小さなぼうけんのおはなし。

『だれも知らない小さな国』

佐藤　さとる／作
講談社　223ページ

小学校三年生の「ぼく」は、ひみつの場所になんども通ううち、小指ほどしかない小さな人たちと出会います。「こぼしさま」だ！けれども、次のしゅんかん、こぼしさまたちは姿をけしてしまいました。

『長くつ下のピッピ』

アストリッド・リンドグレーン／作
大塚　勇三／訳
岩波書店　262ページ

ピッピは、サルのニルソン氏をつれて、たったひとりでごたごた荘にやってきました。とっても力もちで、いじめっ子もどろぼうも火事もこわくない、世界一つよい女の子ピッピのおはなし。

『小さなスプーンおばさん』

アルフ・プリョイセン／作
大塚　勇三／訳
学研教育出版　166ページ

おばさんはときどきティースプーンくらいに小さくなってしまいます。けれども、ちっともあわてません。とんちをはたらかせて、うまく困難をきりぬけます。スプーンおばさんのゆかいなぼうけん。

『ぼくは王さま』

寺村　輝夫／作
理論社　205ページ

たまごがだいすきな王さまのおしろで、赤ちゃんがうまれました。おいわいに、国じゅうの人をおしろによんでたまごやきをごちそうしよう、と思いついた王さま。でも、そんなにたくさんのたまごを用意できるでしょうか。

『ちびっこカムのぼうけん』

神沢　利子／作
理論社　234ページ

カムは、かあさんの病気をなおすため「イノチノクサ」をさがしに火の山にむかいます。けれど、火の山は、マモノや大オニがすむという、おそろしい山。カムは無事イノチノクサを手に入れることができるでしょうか。

『ルドルフとイッパイアッテナ』

斉藤　洋／作
講談社　273ページ

リエちゃんの家のねこ、ルドルフは、命からがら飛び乗ったトラックに運ばれて、遠い町までやってきました。そこで知り合ったイッパイアッテナに連れられ、のらねことしての生き方を学んでいきます。

5・6年生

『赤毛のアン』

モンゴメリ／原作
村岡　花子／訳
ポプラ社　343ページ

赤毛の女の子アンが、プリンスエドワード島に孤児院からやってきました。夢見がちで、おしゃべりが大好きなアンは、まわりの人たちに、楽しさをもたらします。

『大きな森の小さな家』

ローラ・インガルス・ワイルダー／作
恩地　三保子／訳
福音館書店　254ページ

昔、ウィスコンシン州の「おおきな森」の丸太小屋に、ローラと両親と、姉のメアリー、妹のキャリーが住んでいました。大自然の中で助け合い、ひとつひとつを自分たちの手で作るという生活をおくっていました。

『川べのちいさなモグラ紳士』

フィリパ・ピアス／作
猪熊　葉子／訳
岩波書店　196ページ

一人暮らしをしている頑固な老人から、川辺で大きな声で本を読むという奇妙な仕事を頼まれた少女ペット。魔法にかけられた小さなモグラ紳士と出会い、友情を深めます。

『キャプテンはつらいぜ』

後藤　竜二／作
講談社　188ページ

少年野球チーム「ブラック＝キャット」は受験で６年生がやめ、解散の危機。新しくキャプテンに選ばれた勇は、運動神経抜群だが、ぐれて仲間はずれだった友達の秀治をチームに誘います。

『クマのプーさん』

A・Aミルン／作
石井　桃子／訳
岩波書店　253ページ

幼い少年クリストファー・ロビンとクマのプーさんを中心に、コブタ、ウサギ、ロバのイーヨーなど、仲良しの動物たちがゆかいな冒険をくりひろげます。

『クローディアの秘密』

E・L・カニグズバーグ／作
松永　ふみ子／訳
岩波書店　242ページ

退屈で、何か変わったことがしてみたかった少女クローディアは、弟を誘って、ニューヨークのメトロポリタン美術館に家出します。そこで美術品にまつわるミステリーに巻き込まれ、その謎を解こうとします。

『こはく色の目』

リッケ・ランゲベック／作
木村　由利子／訳
文研出版　191ページ

夏休み、モンタナ州の乗馬ツアーに参加したヤーコブは、道に迷います。その時、オオカミが間近にいることに気づき、岩穴にかくれますが、すきまから黒オオカミのこはく色の目がのぞいていました。

『チームふたり』

吉野　万里子／作
学研教育出版　187ページ

東小卓球部のキャプテン大地は、小学校最後の試合で最強のダブルスを組みたかったのですが、５年生の純と組むことになりがっかりします。そんな折、家でも学校でもそれどころではない「事件」が起こります。

『チョコレート工場の秘密』

ロアルド・ダール／著
柳瀬　尚紀／訳
評論社　269ページ

チャーリーが住んでいる町には、有名なチョコレート工場があります。働く人たちの姿を誰も見たことがない、ナゾの工場です。そこへ、チャーリーたち５人の子どもが招待されることになりました。

『魔女の宅急便』

角野　栄子／作
福音館書店　259ページ

魔女の少女キキは、赤いラジオをほうきの先にぶらさげて、黒猫のジジと一緒にひとり立ちの旅に出ます。そして、やっと見つけたコリコの街で宅急便の仕事を始めます。

『バッテリー』

あさの　あつこ／作
教育画劇　243ページ

中学入学をひかえた３月、巧は父親の転勤で岡山に引っ越して来ます。ナイーブでストイックな少年野球のピッチャー巧は、少年野球のキャッチャー永倉豪に出会い、バッテリーを組みます。

『ルチアさん』

高楼　方子／作
フレーベル館　162ページ

昔、たそがれ屋敷とよばれている家に奥さまと二人の女の子とお手伝いさんが暮していました。ある日、ルチアさんという新しいお手伝いさんがやってきます。二人の娘には、ルチアさんが、なぜか水色に輝いてみえます。

『びんの悪魔』

R・L・スティーブンソン／作
よしだ　みどり／訳
福音館書店　106ページ

不老不死以外ならどんな願いも叶えてくれるけれど、死ぬ時にこのびんを持っていると地獄に落ちてしまうという不思議なびんがありました。ケアウエは、自分の欲のため、時には妻への愛の為に、このびんを追い求めます。

『ローワンと魔法の地図』

エミリー・ロッダ／作
さくま　ゆみこ／訳
あすなろ書房　216ページ

リンの谷を流れていた水が止まり、川の水しか飲まない家畜のバクシャーも人々も皆、このままでは生きていけません。この謎を解くため少年ローワンは、腕自慢の者たちと一緒に水源のある魔の山へと向かいます。

『ほこりまみれの兄弟』

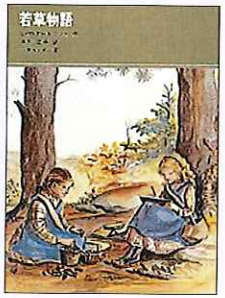
ローズマリー・サトクリフ／作
乾　侑美子／訳
評論社　325ページ

孤児の少年ヒューは、意地悪なおばさんの家を逃げ出し、学問の都オクスフォードをめざします。ところが、途中で旅芸人の一座に出会い行動を共にします。その後、ヒューは辛い決断をせまられることになります。

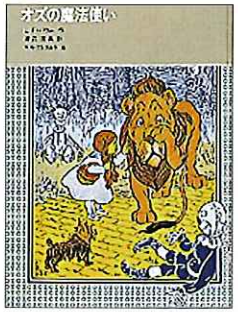
『若草物語』

L・M・オルコット／作
矢川　澄子／訳
福音館書店　496ページ

南北戦争時代のアメリカに、個性的な四人の姉妹が暮していました。父親は牧師として従軍しており、いつも不在でした。四人の姉妹は互いに協力したり、教えあったり、時には喧嘩したりして成長していきます。



ファンタジー



『オズの魔法使い』

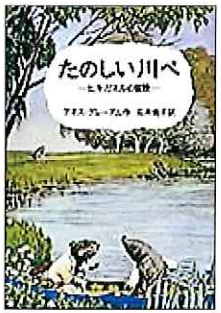
ライマン・フランク・バウム／作
渡辺　茂男／訳
福音館書店　317ページ

巨大な竜巻にさらわれ見知らぬ国にやってきたドロシー。ふるさとにもどるため、大魔法使いオズの力を借りようと、エメラルドの都をめざします。

『宝さがしの子どもたち』

イーディス・ネズビット／作
吉田　新一／訳
福音館書店　299ページ

かつては華やかだったバスタブルの家は、今では借金取りがくるようになってしまいました。6人の子どもたちは、自分たちで財産をつくろうと考え、お金を手に入れる方法をあれこれ試します。



『たのしい川べ』

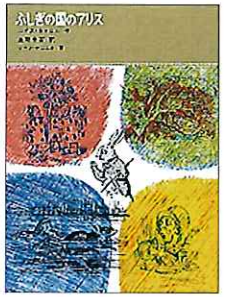
ケネス・グレーアム／作
石井　桃子／訳
岩波書店　359ページ

人里はなれた静かな川べで、モグラ、ミズハタネズミ、ヒキガエル、アナグマが素朴な暮らしを楽しんでいました。そんな中で、ほほえましい様々な事件がくり広げられます。

『トムは真夜中の庭で』

フィリパ・ピアス／作
高杉　一郎／訳
岩波書店　358ページ

夏の休暇中、ただ一人おじさんの家に預けられて、トムは退屈していました。ある晩、階下で大時計が13時を打つのを聞いて、トムは部屋を抜け出し、不思議な光景を目にします。



『ふしぎの国のアリス』

ルイス・キャロル／作
生野　幸吉／訳
福音館書店　180ページ

あわてて駆けていくウサギを追いかけるうち、アリスは奇妙な世界にたどり着きました。不思議ないきものが次々と現れ、アリスを巻き込んで、おかしな会話を繰り広げます。

『床下の小人たち』

メアリー・ノートン／作
林　容吉／訳
岩波書店　246ページ

ピンや針がよくなくなるのはなぜでしょう。ケイトはメイおばさんからある日「借り暮らし」のひとたちのことを聞かせてもらいます。それは、静かな田舎の家の床下に住んでいた、小人の一家のはなしでした。

『ライオンと魔女』

C・S・ルイス／作
瀬田　貞二／訳
岩波書店　248ページ

ルーシィがもぐりこんだ衣装だんすの奥は、別世界につながっていました。そこは、白い魔女が支配するナルニアという国だったのです。ルーシィたちは、白い魔女を倒すため、ライオン王アスランのもとへ向かいます。

冒険

『西遊記　上・中・下』

呉　承恩／作
伊藤　貴麿／編訳
岩波書店　345ページ・374ページ・385ページ

中国の物語。石から生まれた猿の孫悟空は、沙悟浄、猪八戒たちと共に、三蔵法師を助けながら、ありがたい経典を取りに行くために、インドへむけて旅に出ます。

『宝島』

R・L・スティーブンソン／作
坂井　晴彦／訳
福音館書店　456ページ

イギリスの物語。ジム少年の父が経営する宿屋『ベンボー提督亭』に老海賊がやってきました。ジムはこの老海賊がけんかで死んだ後、持ち物の中から地図を見つけました。海賊フリントの財宝の隠し場所の地図です。

『ツバメ号とアマゾン号　上・下』

アーサー・ランサム／作
神宮　輝夫／訳
岩波書店　340ページ・332ページ

イギリスの物語。夏休み、ウォーカー家の4人の兄弟は、ヨットのツバメ号で無人島のヤマネコ島探検に出かけました。島で作戦会議中、突然1本の矢が飛んできました。海賊船アマゾン号がやってきたのです。

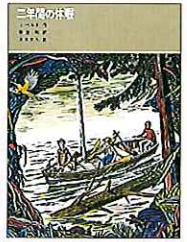
『トム・ソーヤーの冒険』

マーク・トウェイン／作
大塚　勇三／訳
福音館書店　413ページ

アメリカの物語。わんぱく少年トム・ソーヤーはミシシッピー川のほとりにおばさんと住んでいました。ある晩、友達のハックルベリ・フィンと墓地で殺人の現場を目撃してしまいます。

『二年間の休暇』

ジュール・ベルヌ／作
朝倉　剛／訳
福音館書店　525ページ



「十五少年漂流記」としても知られているフランスの物語です。15人の少年たちは帆船「スラウギ号」で夏の休暇を利用して6週間の航海に出るはずでした。しかし、嵐にあい無人島に漂着してしまいました。

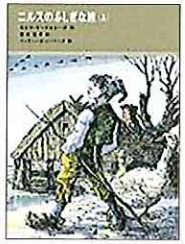
『二分間の冒険』

岡田　淳／作
偕成社　237ページ

6年生の悟は校庭で「ダレカ」と名乗る黒ネコに出会いました。黒ネコは足のトゲを抜いてくれたお礼に「時間」をくれると言います。気がつくと、悟は不思議な時間の流れる世界にいました。そこは竜が支配する国でした。

『ニルスのふしぎな旅　上・下』

セルマ・ラーゲルレーヴ／作
菱木　晃子／訳
福音館書店　515ページ・533ページ



スウェーデンの物語です。いたずらっ子のニルスは、妖精のトムテを捕まえようとして、逆に魔法で小人にされてしまいます。小さくなったニルスはガチョウのモルテンやガンの群れと一緒に旅をすることになりました。

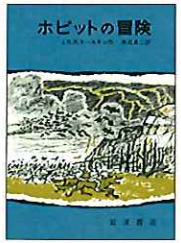
『冒険者たち ガンバと十五ひきの仲間』

斎藤　惇夫／作
岩波書店　378ページ

ドブネズミのガンバは、海で知り合った島ネズミを助けるため「夢見が島」へ渡りました。ガンバたちは、どうもうな白イタチのノロイの攻撃をうけ、仲間たちと必死で戦います。

『ホビットの冒険』

J.R.R.トールキン／作
瀬田　貞二／訳
岩波書店　476ページ



イギリスの物語です。ホビット小人族のビルボ・バギンズは、魔法使いのガンダルフにうまく誘いこまれ、ドワーフ小人族が竜に奪われた財宝を取り戻す旅に一緒に行くことになってしまいました。